

## クサムスビ

EXTRA  
ISSUE

## 住職就任式厳修

平成二十五年十月十八日

## 新任職就任の挨拶

本日は、お忙しい中「浄光寺報恩講」並びに「住職就任式」にご参詣いただきまして、誠にありがとうございます。平素より皆様方には浄光寺興隆に格別なるご尽力を賜わりまして厚く御礼申し上げます。

さる二月、総代の河合忠博さま、細川三千夫さまに帯同いただき参加しました住職修習に於いて、親鸞聖人御真影のもと浄光寺第二十三世住職を拜命賜りましたことを、ここに謹んでご報告申し上げますとともに皆様方へのご報告が遅れましたことをお詫び申し上げます。

思えば、お寺に生まれ育ち三十九年、寺があることが当たり前のよう  
に錯覚しておりますが、はじめから  
浄光寺というお寺があったわけでは  
ありません。当然そこには出発点が  
あります。お念仏の教えに出遇えた  
ことを喜びとされた人が、その教え  
を伝え広めんが為に、仏法聴聞の場  
が開かれた、それがお寺の原点であ  
ります。

今を遡ること五百五十年昔、浄教

房圓成によって浄光寺に法灯が掲げられたとされます。そしてその法灯が今、私にバトンタッチされるわけですが、その間消えることなく私のところにまで届けてくださった、歴代住職並びに無数のご門徒の皆さんのご苦勞を思うと、住職の責務に身が引き締まる思いであります。

しかし、私に与えられた仕事は、お寺をただ相続させていくことではありません。その出处、すなわち浄教房圓成や親鸞聖人が喜びとされたお念仏の教えに皆さんと共にもう一度出遇い直していくことだと受け止めております。

住職という立場に安住するのではなく、娑婆世界に埋没するのでもなく、その狭間において自身が抱える迷いの身と向き合いながら、皆さんと共にお念仏の生活の歩みを重ねてまいりたいと思えます。

何卒、旧に倍して格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十五年十月十八日

真宗大谷派 龍向山浄光寺

第二十三世住職 釋受任

## 前住職の挨拶

本日は、住職就任の式にご参集いただき、新任職には浄光寺門徒会より過分なる「目録」の贈呈を、くわえて小生には身に余る感謝のお言葉を頂戴いたし、恐悦の至りにございます。しばらくお時間をいただき、三十三年を振り返り思いつくま話させていただければと思います。

私にとって、昭和五十五年の父の急逝は想定外のことでした。寺に生まれ、寺に育ったに違いない私ではありましたが、何も寺のことは知らなかったこと、ようやく三十七にして知らされました。一般的には自信に満ちバリバリ仕事を熟す歳ですからね！誠にお恥ずかしいことですよ！実際、寺の内外からそういう眼を痛く感じておりました。

どう住職の道を歩めばよいのか煩悶しておりました、その頃出遭いました一人の古老の言葉が今でも忘れません。いかなる著名な高僧・学者の言葉よりも私にとっては有難く、嬉しかったことです。

「なかも心配せんでえく、わしらが

ついとる、ただ浅の川からこつち（北部）で光る処となって欲しい。けっしておおきな光ではなくて、どんなに小さくてもピカッと光り輝くところを創って欲しい」と言われたことです。後の部分が

自分には重くのしかかって、返って一体どうすればいいのかわからなかった。どうして鈍が光を放ち輝けるなんて不可能！嫌なこという人だなくと、ずっと思っておりました。しかし短い言葉ながら、長らく頭の片隅に残り続け忘れることはありませんでした。

最近やっとその意味のありがたさを感じられるようになってきました。一寸説教ばくなりますが、しばらく我慢してください。親鸞さまは浄土の一つとして

「光耀こうようたがひにかがやけり 華



果枝葉またおなじ 弥陀を帰命せよ」と表現されていますわ。大意は浄土には樹々の光が互いにかがやき、一樹の中でも華・果・枝・葉がまた互いにかがやいている。このような本願によって聚あめられた仏・弥陀をたのめと言うことでしょうか。ことに光耀とかがやけりが意味ある言葉と思つてます。仮名のかがやけりにわざわざルビを「映発す」と記しておられる。因みに「映」は他から光を受けて、そのものが本来持つ色彩が盛り上がってハッキリ見えることだと。面白いのは「受けて」とあること。これは「いたたく」ともいえますし。これは「いたたく」ともいえますし。すべてをです。自己分別はいらんのですよ。そこから解き放たれるというか、前の古老のアドバイスも其処にあったんでは？謙虚にして、あるがままに生きよとのお導きであったのしょう。くわえて「曜」

ではなく「耀」と拘とどつてあることも、小さくとも光り輝く処への願いが読み取れ、長年、法に勤しまれた方の一言であったのですよ。あわせて小生のため、ご批判をいただいに深謝の他ございません。

私が賜ったご厚情、ご叱責に倍し新任職にも建設的ご批判、ご指導を頂戴して一寸輝く処が皆様とともに、受け継いでいかれることを念願して御礼の挨拶とします。

平成二十五年十月十八日

前住職 釋受宣



# 祝辞



住職就任式が滞りなく執り行われましたこと、誠におめでとございます。私達門徒にとりましても目出たく慶びにたえません。

前任職 藤 宣章様には先代より引き継がれて三十三年間、折にふれて親鸞聖人の教えをはじめ、その時々心に響くお話をされ、私達をご指導いただきましたこと、改めて感謝を申し上げます。

住職在任中には、本堂修復計画が平成七年六月に着手され、翌年七月二十一日に起工式が行われました。そして三年がかりで平成十年十月、「本堂落慶法要」並びに「蓮如上人五百回忌御遠忌」を音楽法要を取り

入れ盛大に執り行われました。同時に設置されました地下納骨堂は近隣寺院にはない斬新さで好評を得ております。本年は冷暖房設備を設置し環境面においても心を配られるなど多岐にわたり浄光寺発展に多大な力を發揮され、盤石な礎を築かれ、若院 藤 任章様に後継を託されました。

新たに住職を継がれました任章様におかれましては、本年五月より毎月二十八日に新任職ご指導のもと正信偈の学びをとおして親鸞聖人の教えを聞く場として「きこまいけ」を發足させ、毎回多くの方が参加し学んでおります。「きこまいけ」と同時に金沢教区第八組の若手としてお寺で落語を聞く「おてらくご」を初めて開催され、多くの人に足を運んでいただき仏法に触れる企画をされるなど、宗門発展に積極的に取り組まれております。

このように新任職として意欲的に取り組まれていることは、私達浄光寺門徒にとりましても心強く

思い、この上ない喜びであります。今後とも、新任職を盛りたて、浄光寺興隆に尽力してまいる所存であります。

住職交代にあたり門徒を代表してお祝いの詞といたします。

平成二十五年十月十八日

浄光寺門徒総代

責任役員 河合忠博

## 写真展を初開催

報恩講期間に合わせて十月十二〜十八日まで本堂地下礼拝堂に於いて「浄光寺写真展」が初開催されました。キャッチフレーズは、「すべてが、シャッターチャンス。シャッター音は、ナムアマミダブツ」。浄光寺門徒を中心とする十二名、三十七点を展

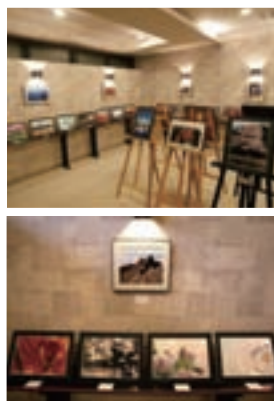
すべてが、シャッターチャンス。

### シャッター音は、ナムアマミダブツ。

＊浄光寺写真展＊  
 期日：10月12日(土)～18日(金)  
 時間：午前9時～午後6時  
 場所：浄光寺本堂 地下礼拝堂  
 撮影：浅森久雄 大竹春夫 坂本茂吉 高田進 汪子 竹内昭平 松島晋 山本和之 (五十音順)

＊報恩講＊  
 日時：17日(木)午後1時半～夜7時  
 18日(金)午前10時半  
 場所：浄光寺本堂  
 法要：般若懺悔(読経・法華)

示。小学生・中学生から八十歳まで幅広い作品が揃い、おかげさまで見応えのある写真展となりました。＊参加者・浅森久雄、大竹春夫、開田隆人、坂本茂吉、高田進・汪子、竹内昭平、野関哲也・悟・映実子、松島晋、山本和之(五十音順)



# 追弔会、勤まる

八月十三日、追弔会が執り行われました。遠近よりご参詣いただきありがとうございます。お盆ということもあり、家族連れの方も多く、ご先祖様を縁に仏法に耳を傾けられました。ご法話は、**靈河秀樹**（福井県 浄土真宗本願寺派 玄性寺住職）さんをお招きしての歌とギター演奏による法話ライブ形式。仏教讃歌は勿論、JPOPやオリジナル曲など全九曲を、法話を挟みながら、とても美しい歌声でやさしく歌ってくださいました。きっとその歌声はみなさんの心に仏様の願いを届けてくれたことでしょう。笑いあり涙ありの八十分となりました。



YouTubeで「浄光寺」と検索！ライブの様子を見ることができるよ



## 報恩講執行

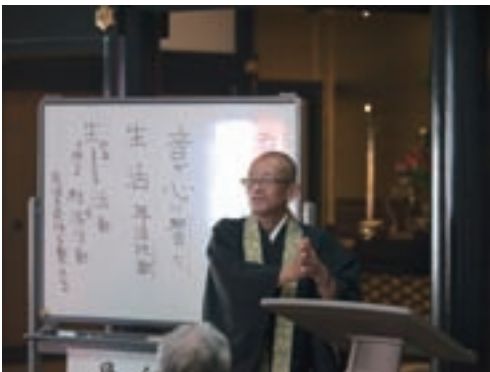
十月六日、「ほんこさん」をお迎えするにあたり「おみがき」（仏具磨き）が行われました。初参加の方も多数いらつしやり、皆さん一生懸命。おかげさまで見違えるほどにピカピカ。如来さまのお仕事のお手伝いをする事ができて、皆さん笑顔で良い汗を流されていました。ご協力ありがとうございました！

## おみがき



十月十七・十八日、「報恩講」が執行されました。ご法話は、昨年引き続き相馬豊師（白山市・道因寺住職）。親鸞聖人

の「ひとのいのちみじかくもろし」というお言葉深く味わいさせていただきました。今回のご法話も当寺法話録『結草』（くさむすび）に掲載させていただきましたので、併せてご覧ください。夜はプロジェクターでDVD『教如上人物語』を視聴後、教如上人（東本願寺開祖）の歴史や当寺との関わりについて前住職にお話いただきました。教如上人四百回忌に当たる本年だからこそいただくことのできた貴重なご縁となりました。



相馬豊先生

## きこまいけ

毎月28日・午後2時

親鸞聖人の御命日に『正信偈』に学ぶ会「きこまいけ」を開催いたします。どなたさまにもご参加いただけます。初心者・途中参加大歓迎！お気軽にお越しください。

きみょうむりよー



大晦日  
午後十一時半  
除夜の鐘  
修正会

温かいものをご用意してお待ちしております